

アームダンパーの効果(5)

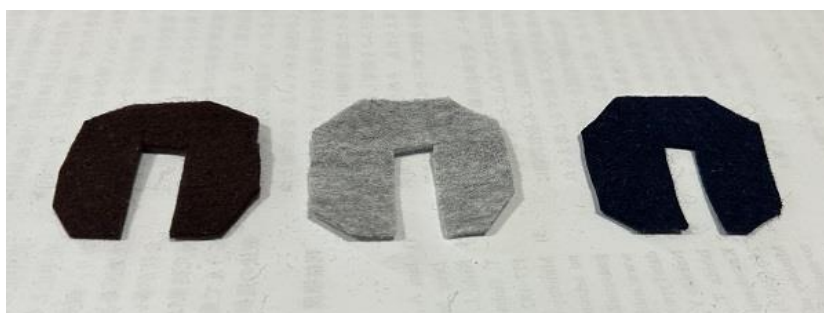
—LINN LP-12(2)—

1. 始めに

前報(3)の結果を受け、素材を替えるなどして、LINN LP-12 のアーム GRANZ MH-9Bt での効果を確認します。

2. アームダンパーの試聴計画

前回は、糸糸を使用しましたが、GRANZ MH-9Bt の可動部と固定部の隙間が小さいため前報(4)の密度の高い研磨用のフェルトはスライスするのが難しく、色違いの薄めのフェルト3種を試してみることにしました。



A: 濃褐色

B: グレイ

C: 濃紺



A のセット

試聴する音源は次のとおりです。

ドイツグラモフォン MG-2037

チャイコフスキー Overture “1812”

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

PHILIPS 28PC-3

ムソルグスキー 展覧会の絵「キエフの大門」

コリン・ディヴィス指揮アムステルダムコンセルトヘボウ

3. アームダンパーの試聴結果

A のフェルトをセットしますと、Overture “1812”は、全体に音の濁りが取れ、特に低弦とティンパニや砲撃の擬音の解像度が向上します。

展覧会の絵「キエフの大門」は、これも低音がクリアーになり、グランカッサの量感が向上します。

B のフェルトと C のフェルトをセットしようとしたのですが、腰が弱く、ちょっとした厚みの関係で、アームの隙間に挟み込むのが難しく断念しました。

試みに A のフェルトを外しますと、元の音に戻り音が濁ってしまいました。そこで前報(3)の毛糸の巻き付けに戻しましたところ、A のフェルトとほぼ同様の効果がありました。それ故、しばらくこの状態で聴いていくことにします。

4. まとめ

手芸用のフェルトを切り抜いたアームダンパーを LINN LP-12 のアーム MH-9Bt にセットする効果を認めましたが、厚みの関係でセットできないものがありました。

以上